



北桑の校歌にふれて



7月25日、おーらい黒田屋で開催された「ふれあいサロン」に参加させていただきました。そこで出会った方から、その昔京北町で歌われていた学校歌や愛唱歌が集められた冊子を見せていただきました。

実は私は着任前の5月に、この冊子があることを先に知っていました。そして、その中にあった歌の歌詞がなぜかずっと気になっていました。それが私を京北に誘ったといっても、いい過ぎではありません。そして、これまで音楽にたずさわってきた私としては、「うたを通して京北を知りたい」と思いました。もし「こんなうたもあるよ」という方がおられましたら、ぜひ教えてください！

いなか暮らしフェア@大阪

7月28日に大阪で開催された移住促進イベント「おいでや！いなか暮らしフェア」に、京都市北部山間地域として出展してきました。当日は台風が迫っておりましたが、それでも移住に関心のある都市部の人々が、熱心にそれぞれのブースを廻っていました。

京都市の中に田舎がある――まずこのこと自体が、都市部の人々からすると驚きのようです。もしくは反対に、山の中のイメージが強すぎて、開けた地帯があるとは知らなかったという方もいました。いずれにしても、まだまだ京北は知られていないのだな、と感じました。沢山の方々から知ってもらえるような取り組みに努めます！



着任のご挨拶

このたび7月より京北に着任しました常盤成紀（ときわ・まさのり）です。大阪でオーケストラのコンサートをプロデュースしながら、音楽を通したまちづくりに携わってきました。イベントの企画プロデュースや文章の執筆が専門です。自然と人が豊かなこの京北がもっと魅力的な町になる、ささやかながらそのお手伝いをさせていただきます。よろしくお祈りします！

二条城マルシェ

7月2日に二条城で、京北の名産品などを販売するお手伝いをしてきました。当日は暑かったせいか、人通りはあまりありませんでした。それでも足を止め、お買い上げいただいたのは、中国をはじめとする外国人観光客の方々でした。



京北のことにもっと興味を持っていただくために、どのように私たちを見ていただくのがよいのか、しっかりと考えていきたいと感じました。

『なかえ路』の現場へ

7月19日と26日と、山国中江で発行されている地域新聞『なかえ路』の編集現場をのぞかせていただきました。『なかえ路』は、書いた文章をただ乗せてくれるだけの場所ではなく、「読んだよ」と感想がもらえる交流の場所であり、それはまた読み返すことのできる「まちの記録」であると思いました。私がお邪魔した回はNo.420！ 本当に素晴らしい歴史です。ひとつひとつ丁寧に作りこまれたポップにも感銘を受けました。



地域廻り——左京区

はじめは広く地域を知る、ということで、左京区花脊にある峰定寺を参拝しました。お約束通り写真は撮っていないのですが、お堂まで登ったとき、「これは写真では伝えられない」と直感しました。事実こういうことがある中で、いわゆるPRを私たちはどのように考えていけばよいのでしょうか。